

(1990年3月23日第3種郵便物認可)(期1日新)1992年 7月1日 全国民闘連ニュース 第68号(1)

全国民闘連ニュース

第 68 号

1992年

7月 1日

年間購読料

3000円

発行 民族差別と闘う連絡協議会

連絡 ●537 大阪市東成区東小橋3-20-11近畿ビル3階8号 Tel 06-972-1608 Fax 06-973-5666
●210 川崎市川崎区桜本1-8-22 Tel 044-288-2997 Fax 044-287-2045



反差別と人権の民族教育

(1992年7月11日 第2回民族教育の課題と未来を考えるシンポジウム報告)

奈良・在日外国人保護者の会が結成される

反差別と人権の民族教育

民族教育とはなにか。

在日韓国・朝鮮人と日本人の子どもたちが
手を取りあっていくにはどんな教育が必要なのか。
そのゆくえを探るため大阪でシンポジウムが開かれた。

- ◆パネラー◆
キムウイチョル 金義徹氏(トッカビ子ども会指導員)
ヤン ウ ジヤ 梁優子氏(高槻むくげの会指導員)
ムンゴンフィ 文公輝氏(トッカビ子ども会指導員)
ムンミシル 文美実氏(泉大津市戎小学校民族講師)
チンイジュア ◆司 会◆陳伊佐氏(トッカビ子ども会指導員)

国三: 最初に金義徹氏より、「学力と民族教育」というテーマで話して頂きます。

金義徹: 私が子どもの頃就きたかった仕事は小学校の先生だったのです。その理由は家庭内がすさんでいて、両親の不仲とか家の貧しきとかがあり、自分の居場所がないということでした。それで、学校が頼りというか、成績もいいし友達もいて、自分の居場所があるので、現実逃避できる学校にいたいという理由で、学校の先生になりたいと思っていました。

しかし、中学校3年生の時、生徒会活動の指導をしていた先生に、教員の国籍条項の話を見ました。その時は、ショックというのではなく、朝鮮人だから仕方ないと感じました。それから、将来何をするかという展望がないまま、高校に進学するという状況でした。そして、朝鮮人であることを隠し、逃げてしま

た。ところが、高校である先生に出会い、朝鮮奨学会のことや、親や生活を直視することの大切さを聞き、歴史や朝鮮人の生き方とかを教えられます。最初はすごく嫌だったんですが、次第にその先生の人間味に魅かれていき、やがて学校で朝鮮人宣言をするまでになります。

ところが、当時自分が文集などに書いた文章には、「祖国の統一の為に寄与したい」とか書いているのです。やがて、朝文研にいた子が帰化をして、その子との関係が切れてしまう。母子家庭の子が、経済的理由で大学進学を断念する。その中で自分一人だけが大学へ進学する。それで、統一も大事だけれどもっと生活の問題を見ていかなあかんと思うようになりました。

私が高校2年の時、自分の学校の先生が中心になって教員の国籍条項が撤廃さ



れました。自分の身近な人の活動によって、自分が教師になれないという現実が変えられたことにより意味で衝撃を受けました。そして、子ども達に夢を与え、共に学んでいくという先生という職業につきたい。あるいはそういう運動に関わっていきたくて思いました。その事が、今の僕の一番のバックボーンである訳です。

そして、大学に進学し、活動をしている中で印象に残っていることがあります。それは、トッカビ子ども会の指導員の方から聞いた話です。

「朝鮮人宣言や本名宣言というけれども、学力的にしんどい子が朝鮮人の思いやなぜ本名を名ののかということをも自分なりに整理し、周囲の子に訴えることは困難である。そういう子に対して、ただ本名を名のれ、朝鮮人として生きろと言っても、本当にしんどい事だった。」

私が朝鮮人宣言をした時は、学力もあったし、クラス活動、生徒会活動を通して人間関係もできていた。けれども学力的にしんどい子にとっての本名宣言、朝鮮人宣言を考えた時に、自分をふりかえ

って思い上がりのようなものを感じました。それから自分が子どもの頃先生になりたいと思ったのも、勉強ができるという自信があったからです。もし、自分に学力がなかったら、果たして自分はこうした職業についているか、あるいは民族のことでもっと頑張っていこうという気持ちになれているかは疑問です

実際、子ども会の子を見ても、小学校高学年くらいで、学力のしんどい子、勉強に自信のない子は、民族意識があっても、どうせ自分は無理やと思い、将来の職業についても展望をなくします。それから自分が勉強できないということと朝鮮人であることがいっしょになって、朝鮮人は損やイヤやという気持ちになってしまいます。

ですから、学力だけではダメですが、民族教育の中で、学力をつけていくということを経視したら、歪んだものになるし、現実はその甘くない、ええかって言うなという形で、子どもから反発を受けるだけのものになります。

最後になりますが、これからの社会を担っていく「在日の社会」を作ろうと思ったら、今の社会に対応できる子どもをつくっていかなければ、在日だけが取り残されます。そのためには、学力保障というのは絶対条件です。勉強しよう、頑張ろうといえる民族教育、子ども会活動を作っていきたいと、自分を振り返って思う次第です。

田中：次に高槻むくげの会の梁優子さんから「民族文化について」というテーマで、自らの生い立ちを交えて提起して頂きます。

梁優子：まず、自分が何故子ども会指導員をしているかという、自分がかつて朝鮮人であることから逃げたかったし、隠したかった。そういう思いを今の子たちに繰り返させたくないというのが原点です。

私は在日3世として、自分の日本社会での位置というものをずっと考えてきました。指紋押捺拒否闘争などを通して考えた結果、今では、私はこの日本社会に生きる市民だし、朝鮮半島につながる文化を持つ、またそれを保障させる権利を持つ人間だと思っています。

在日の3世として、1世や2世がどういう思いをして生きてきたのかを見ていく必要があります。それで、1世について話しますと、高槻むくげの会のアジュメ(おばさん)学校で識字活動をしている中で、ハルモニ(おばあちゃん)達としては、2世が3世に朝鮮人としての教

育をしていないということにすごく怒りを感じておられます。自分たちは2世に対してはちゃんと教育したのに、孫にはなぜきちんと教えないのか悔しがっておられるんです。

また、識字学級におられる70才のハルモニで、30年前に韓国へ行かれた時に、自分のしゃべる韓国語がまったく通じなかった経験を持っておられる方なんです。自分の子どもたちを帰化させたとおっしゃるんです。それが日本で生きていくことなんや、そうしなかったらやっていかれへんのやと、涙を目にためながら私に話してくれたんです。

そのような現実をみた上で、どんな教育が必要で、どんな教育を作っていくのが大切だと思っています。

次に文化について話します。高槻市の小学校の子ども会の指導をしていて、給食をクラスで一緒に食べているのですが日本人の子から、「なんで日本に住んでいるのに、韓国人なの？」と質問されるのです。また、「私は在日の3世です」と言うと、「じゃあ僕は日本人の1世だね」と答えられるんです。そのように、日本人の子どもがストレートに自分の疑問を出すんです。それで、ある在日の女の子が、友達から韓国のことを聞かれると、答え切れない。日本人の子に対してどう答えるのかというのがないと、自分を隠したり、気持ちが不安定になるんですね。



日本人の子どもに朝鮮の文化に触れさせると、すごいね、きれいだねという反応がある一方で、からかったり、反発したりすることもあります。とくに本名に対して、もじったり、からかうような雰囲気があります。そのような現実を変えるという発想で、民族文化の取り組みも考えなければならないし、違うということが当たり前だという感覚を子ども達に持ってほしいと思います。

また、日本の学校での日の丸・君が代問題を在日の立場からどう捉えるかというのを民族教育の中で整理する必要があります。

最後に、学校で朝鮮人宣言をしていない子が「朝鮮人として前に出る時に、いじめられるより無視される方がつらい」と言うんですね。そのように言わしめるのはなぜなのかというのを、見据えながら、違う文化の楽しさや、逆に在日として日本の文化をどう捉えていくのかということも含めて、文化のことを考えていきたいと思います。

■：私もいろいろな学校に行って自分の名前を言った時に必ず何人かの子が私の名前を聞いて、笑うんですが、「私はね、この名前を取り戻すのにね…」と話すんです。そのような違いを認め合うことを教えなければ、文化だけ教えても朝鮮人の子にとってつらい場面を余計作ってしまうと思います。

次に、トッカピ子ども会指導員の文公



輝さんに進路保障の必要性について話して頂きます。

■：大阪市職員の国籍条項の撤廃運動をしてきたのですが、なぜ大阪市職員になりたいのかというと、自分は朝鮮人として生きていきたいし、働きたい。そのような生き方を、自分が大阪市で働くことで朝鮮人全体に返していきたいと思うのです。

正直いって運動がうまくいかない時に自分は朝鮮人やから就職できないということで悩んで朝鮮人イヤやなと思うこともありました。それでもなぜやってこれたかということ、進路や就職の問題が自分の生い立ちの中で朝鮮人観を作っていく上で大きく、重要な問題と思ったからです。

私が大学の時、「ぶん・こうき」という読み方から「むん・ごんふい」に変えた時の自分の葛藤をよく覚えています。自分がその時悩んでいたのは、大学にいる時は「むん・ごんふい」でやっていけるかもしれないけれど、就職したらこの名前を名のれないのではないかという恐ろしさがあったんです。だから、変える

だけ損やという思いがあったのを覚えています。それでもなぜ「むん・どんふい」に変えたかという、就職問題などに関わってきた朝鮮人学生の姿があると思います。在日朝鮮人問題研究会というサークルで、就職問題等についての朝鮮人学生対象のアンケートをとったんです。アンケートを通して見えてきた朝鮮人学生の姿の一つが、「本名を名のってもどうせ卒業する時は通名だ」というのです。ある人は就職しても本名でいこうと思ったんですが、内定が決まった企業から、通名でなかったら困ると言われて、通名にしたと言うのです。

また、国籍条項撤廃運動を始めた時に知り合いの子から手紙をもらったのですが、就職活動をしていて何件も日本企業を回っていたら、自分が朝鮮人である事がしんどくなって、もうええわという気持ちになってしまったけれど、テレビや新聞で大阪市の運動のことを知って、もう1回頑張ろうという気持ちになったと書いてあるんです。

そのように朝鮮人として生きたいという当り前の願いが、就職という壁に出会った時にねじまげられるという現実にいきどおりをおぼえます。ですから、自分も負けたらあかんと思ってきました。

一步社会に出た時に厳しい現実がある。それに対してどうするかという展望なしには、朝鮮人として生きることは難しいし、その事を抜きにした民族教育ではダメだと思います。

文美実：次に、文美実さんから「学校の中の民族教育」というテーマで話して頂きます。

文美実：私は中学校まで民族学校にいてずっと本名で生活してきました。そして日本の公立高校に通ったのですが、日本人との人間関係が難しかったのを覚えています。大学へ行ってから、通名を名のっている朝鮮人学生や日本人と共に活動している朝鮮人学生と知り合う中で自分が何も知らないことに気付きました。

私のハルモニが私の小学校2年の時の



日本語教科書を勉強していたんですが、ハルモニが日本語を読めないことがわからず、その意味もわかりませんでした。でも大学時代にいろんな人から話を聞く中で、ハルモニが日本語を読めなかったということに初めて気づき、もっと勉強しなければという気持ちになりました。

大学4年の時に、四日市で子どもを対象に朝鮮語を教えるようになって、本名を名のれない子ども達を目の当たりにして、一緒に考えて生きたいと思い始めました。それで、日本の学校に通っている本名を名のれない子ども達に関心がいくようになって、教員免許を取りました。

今は民族学級の仕事をしていますが、日本人でも朝鮮人でも入級希望であれば入れるというシステムで位置付けがあいまいです。その事を他の先生と話すと、「朝鮮人の親から民族学級をしてほしいという要望がない」とか「みんな隠したがるのだから、そっとしておくのがよい」という話が出たんです。でも「本名を名のらないで、朝鮮人が自分の姿を隠して生きる姿をみて、日本人としてそれを自然だと感じているのか」という疑問があったんです。

家庭訪問に行った時に、在日のオモニ(お母さん)達から「自分は日本社会の中ですごくうつむいて目立たないように生きてきたんだ。今も自分の子どもに、わざわざ民族学級に行かして韓国人ですと表明させたくない」と言われるんです。また、「日本に住まわせてもらっている



のだから、日本の学校の中でそこまで要求するのはおこがましいのではないの」とも言われます。それでも、自分の子どもが差別されたくないという気持ちではつながっていきけると思うし、そんなオモニ達の学校に対する不信感とかを先生達に見てほしいと思います。先生が親の思いを共有し、共に考えようという姿勢がなければ、オモニ達は心を開かないと思います。

在日朝鮮人教育に熱心な先生も「自分は誠意を持って一生懸命オモニに話をしにいくんだけど、これ以上言わんといて、もうしんどいねんと言われたら、その次に出る言葉がない」とおっしゃるんです。それでも、在日の子に対して先生としてはどういうことが必要なのかを見つめて信念をもってあきらめないで言っ

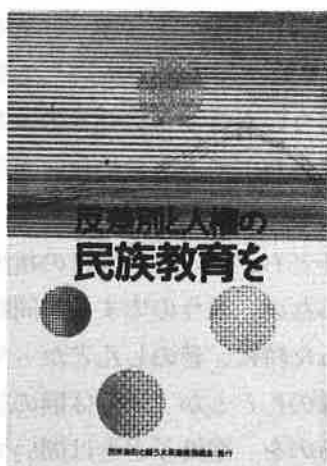
てほしいと思います。
在日の子ども、親は今の在日の状況を的確に知らないと思うのですが、同胞同士で集まった時に、昔のしんどかった話とか、就職のこととか、差別体験の話とか出てくるのを、案外子どもは聞いていると思うのです。だから現実以上に状況

が厳しいと思っている子どももいると思いますが、そういう子ども達に的確な情報、事実を伝えなければと思います。

また、本名で生活している子への取り組みの弱さを感じます。本名を名のらせるのは出発点だけれどしんどい作業なので、本名を名のることが目的になって、本名さえ名のればよいと思っている先生もいると思います。私の兄弟もみんな本名で日本の学校へ通っていたのですが、学校の先生が家庭訪問に来たときに、「お宅のお子さんは民族心が強くて立派ですね」とだけ言って帰るんです。でも、本当に本名名のっていたら在日朝鮮人としての自覚がすごくあって、社会に対して不安を感じていないかと言ったら、そうじゃないと思います。本名を名のっている子に対する取り組み、進路や就職の問題の解決とかが必要だと思います。また、本名を名のっている子と名のっていない子の間で高めあいというか、仲間作りをしていく必要があります。

私は本名を名のってずっと生きてきたけれど、何か晴れ晴れとした気持ちになれないというのが、私が民族教育にこだわってやっていきたいと思っている根底にあります。自分につながっていく人達みんなが、出合っていく子ども達みんなが本名名のっていきいきと生きている姿を見て、初めて自分がいきいきとできると思うので、みんなが支え合い、高めあうという仲間作りを学校の中で考えてほしいと思います。

最後に、私は家庭訪問した時にオモニから「あなたは、同胞だから、あなたに分かってもらっても仕方ないわよ」と言われたんです。やっぱり一番わかってほしい、気持ちを受けとめてほしいのはクラスの担任であるし、子どもにとってはクラスの仲間だと思います。一見オモニ達は心を閉ざしているように見えますが心の奥底ではそういう意味での期待はすごくあるということを分かってほしいと思います。



反差別と人権の民族教育を

在日を基盤とし

生活の現実から出発した

民族教育の実践に基づく提言

編集、発行 民族差別と闘う大阪連絡協議会

定 価 700円

ご注文は、同協議会事務局まで

〒537 大阪市東成区東小橋3-20-11近畿ビル308

TEL 06-972-1608

奈良・在日外国人保護者の会が結成される

奈良・朝鮮人教育を考える会



奈良外国人保護者の会が、去る9月13日に橿原・大久保隣保館で結成されました。

奈良は、大阪のような在日朝鮮人の多住地域がなく、既存の組織で積極的に活動されている人を除けば、在日同胞が出会える場がなかなかありません。そこで奈良県外国人教育研究会、奈良・在日朝鮮人教育を考える会、香芝朝鮮文化研究会の3団体が、この間、教育運動を通して関わってきたオモニたちに「保護者の会」結成を呼びかけてきました。そして、今年2月8日から5回の結成準備会を重ね、9月13日を迎えたのです。

当日、40名を超えるオモニ・アボジの結集があり、ソダンや高校生交流会（

奈良高同教主催）に集う在日朝鮮人高校生による「ブチュチュム」が大きな感動を呼びました。また、兵庫・大阪・三重等全国各地から激励を受け、参加者も保母・教師・一般を含めると150名を超え、成功裡に終えることができました。集会とそのあとの野外焼肉パーティーで出てくるオモニたちの言葉は、「もっとはやく結成したかった」、「子どもの進路について相談したい」、「親子ともども民族が出会える場になれば」等で、この奈良の地にこういった会がいかに待ち望まれていたかでした。

ここで特筆すべきことは、「保護者の会」の会則・第4条（会員）の後半「…本会には、国籍条項はありません」です。

(国および地方自治体は、しっかり学ぶこと)

今後は、各地の取り組みに学びながら、まず保護者が出会い、交流を深め、子育てや子どもの進路について語り合い、民族文化活動等の取りくみが、毎月1回(第3日曜日)すすめられます。

そして、奈良県外教や奈良・考える会、香芝朝文研の呼びかけ3団体は、そのまま後援団体となります。これとは別に、「保護者の会」への支援・連帯を目的として、新たに所・園・校の保母・教師、その他の個人及び団体の加盟による「奈



良・在日外国人保護者とともに歩む会」が10月3日に結成されました。

オモニ、アボジ、その他の外国人保護者とともに元気に歩んでいきたいと思ひます。

「奈良・在日外国人保護者の会」結成の趣旨

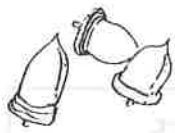
奈良県では、1986年、都道府県レベルでは全国で初めて在日朝鮮人教育の基本指針がだされ、学校で少しずつ在日朝鮮人教育が取り組まれるようになってきています。

とは言っても、在日朝鮮人児童・生徒をとりまく環境は依然として厳しいものがあります。高校の場合を例にとれば、本名を名のがることが出来ている生徒は1割に満たず、多くの生徒がごく親しい友人にしか自分が朝鮮人であることを明らかにできないと思われます。小学校の低学年の頃に、朝鮮人であることを誇りにしていた子どもたちが、中学年・高学年と進むうちにだんだんと朝鮮人であることを隠していくようになるのが、まだまだ一般的ではないでしょうか。また、進路などを見ても、高校の場合、就職者の半数近くが縁故就職といった状況です。

奈良は、大阪などとは違い、在日朝鮮人の多住地域がなく、既存の組織(民団や朝鮮総連など)で積極的に活動されている人たちを除けば、在日同胞が出会える場がなかなかありません。そこで、子どもを日本の学校に通わす日同胞の保護者が集まって、気軽にいろいろな話ができる場があればいいなと考えている次第です。この奈良の地で民族文化祭ができれば、といったことも思っています。

(文中の「在日朝鮮人」という言葉は、朝鮮籍の人でも韓国籍の人も含めて使っています。)

<奈良・在日外国人保護者の会結成総会の御案内より>



奈良・在日外国人保護者の会



ホー一回 モイム(集判)の 却案内



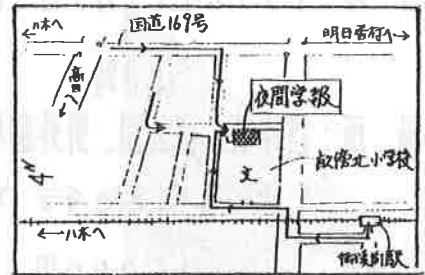
日・時 ... 10月18日(日) 午後2:00 ~ 4:00



場所 ... 橿原市立 飯傍中学校 夜間学級
(近鉄飯傍御陵前駅 下車 東北へ歩いて5分)
TEL. 07442・4・9460 (吉川) 飯傍北小学校内

内容 ... 自由に語りながら これからの予定を決めて
いきたいと思っています。

年会費 ... 2,400円



連絡先: 金光子 TEL 07435・2・7890



子ども 同伴でも 大歓迎!
ゲーム 本など用意して あります。



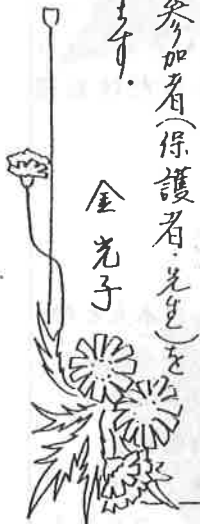
結成後、代表を囲み、数人で慰労会を兼ね、今後のことなど 話し合いました。
燃える希望で 思いが ドンドン 広がっています。話しが つきませんでした。でも 今、お先に
やらねばならないと、それは 保護者の会ができたことを、一人でも多くの方に 知ってもらおう!
案内状をまそう! 学校にも 通知漏れのないようにしよう! 根気よく 知らせよう! ... と。

金 光子さん(代表)から

同胞の方へ 親友の方へ のメッセージです

九月十五日、在日外国人保護者の会が、
結成されました。多勢の方々に 祝福され、
白いマストが 高くとあげられ、青い、広い海に
希望と、不安と、期待を乗せて 今、まさに
本航—ようとして、います。
この船、多勢の人達の乗船により、その重みで、
前進するのです。いろんな思い、考えを持って集まって
みましょう。初めて会う人にも かわりなく、旧知の友人
のように、話がはずみます。不思議なものですね。
学校の先生方にも お願いします。
結成会に出席して下さった保護者の方は、ほんの
一部の熱心な先生がおられる地域に限られているように
感じられます。
奈良全県に 散らばっています外国人保護者の方に
呼びかけをお願いしたいと思います。
この会の存在を知らされないという事は、大きな
損失になるかもしれません。
一人でも多くの参加者(保護者 先生)を
お待ちしております。

金 光子



日時：1992年11月1日(日)

10時～

場所：摂津峡 桜公園、野外劇場

(雨天決行)

参加費：大人 1,000円

子ども 無料

高槻市営バス

JR高槻駅北口から塚脇行き
塚脇下車10分

お昼に焼肉と飲み物を用意
していますが、ご飯、お茶は
御持参して下さいようよう
お願いします。



大野遊祭

第6回

だ

い

や

ゆ

う

さ

い



在日韓国・朝鮮人と日本人が
広場に集まり、焼肉に舌づつみ
をしながら、語り合い、交流
を深めます。うたやおともも楽
しみます。みんなで在日韓国・
朝鮮人問題を考えていきましょう。
(車での来場はできるだけお控
え下さい。)

主催：在日韓国・朝鮮人と日本人との
交流・交友のつどいを進める、
実行委員会

後援：高槻市・高槻市教育委員会

連絡：青少年課分室 塚脇 優子まで

TEL：0726-711-2021